

災害から命を守る

～豪雨災害から5年を経てもうこと～

しんわ苑 職 員 一 同

1. はじめに

平成25年7月28日、日本付近は大気の状態が非常に不安定であったことに加えて、対馬海峡から山陰地方に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、雨雲が次々に発達したことにより、山口県と島根県では午前中を中心に記録的な豪雨となりました。そして、気象庁は「これまでに経験したことのないような大雨」であると発表しました。

特に、私たちの障害者支援施設しんわ苑がある萩市東部地域は、1時間雨量138.5mm、3時間雨量301.5mmという萩観測史上最大となる突然の集中豪雨により、甚大な被害を受けました。残念ながらこの災害で死者2名、行方不明者1名の人的被害がありましたが、私たちしんわ苑をはじめ特別養護老人ホームなどの要援護者施設から1人の被害者も出なかったことは、奇跡であったと同時に大きな教訓となりました。

2. 体験の記録と検討事項

あの日から5年が経ち、改めて『災害から命を守る』にはどう行動すべきか、実際に行動した記録を振り返りながら検討しました。

●生活面

7月28日（日）

起床介助時、湿度が異常に高いため冷房を入れないと着替えができにくいくらいに汗ばんだと記憶しています。9時の引継ぎが終わり苑庭に目をやると、徐々に勢いを増す雨で池のようになるまでに多くの時間はかかりませんでした。この日は休日のため出勤職員も少なく、異変を感じ上司に連絡をとりました。裏山から茶色の水が流れ、本館側が危険であるため、安全な訓練作業室へ移動の指示がありました。本館の居室を利用する強度行動障害の利用者を含め、男女約40名を訓練作業室へ移動させました。訓練作業室への移動は、日頃から行事等で使用する場所でもあるためスムーズに行えたと思います。そのとき利用者は、何か始まるのかと嬉しそうにニコニコしている方もいたようで、それが職員の救いでありました。パニックも起こさず移動できたことは、いつもの場所だからと言う安心があったからだと思います。

須佐町内の川が氾濫し、11名の住民の方がしんわ苑に避難して来られました。そこで問題となったことは、避難者の子どもさんが持ってきたパンを利用者が見つけて、カバンを探ったり追いかけて回したりしたことです。すぐに、訓練作業室内をパーティションで仕切りましたが、一般避難者を受け入れる際には考慮すべきことであったと思いました。13時頃には国道の水が引いたことで移動できるようになり、一般の避難者は帰られていました。当日、苑では数名の職員で利用者の対応や一般避難者の対応、電話連絡の対応に追われました。

断水の連絡がありましたが、苑に貯水タンクがあるためしばらくは使用できました。しか

し、ポンプが水に浸かると動かなくなり、トイレやお風呂が使用できなくなりました。トイレはバケツに水を汲んでは流し、入浴はこの日は中止して非常時のため日中着で就床しました。

夜間は訓練作業室をパーティションで仕切り男女を分けてゴザを敷き、居室から運んだ布団を敷いて寝ました。旅館のように並べた布団で眠ることに、いつもと違う興奮があった利用者もおられました。幸いなことに最重度の強度行動障害の利用者は少し離れところで、落ち着き眠られました。

7月29日（月）

交通がマヒし苑長はじめ出勤できない職員もあり、何とか出勤した職員のみで対応しました。前日の対応や状況のみを引き継ぎ、本日も入浴と洗濯は中止、日中着のままで就床することとしました。清拭が必要な時はウエットティッシュで対応しました。混乱の中、給水車が早くに配置された為、給食用と生活用の水の確保ができました。生活用水については、大きな浴槽に入れてもらい、トイレ等に使用しました。

7月30日（火）

田万川温泉が被災者に開放され、数名の利用者が利用しました。残りの利用者は苑で清拭対応としました。水道が出ないため、歯磨きなど日常生活の変化に納得できない利用者もおられました。

7月31日（水）

調理職員の出勤が少なく食材も少なくなっているとの連絡事項がありました。洗い物もできないためお皿などは使い捨ての物を使用していました。

8月1日（木）

町内のショートステイ利用者2名を継続して預かることとしました。また、8月5日までは通常支援を中止し、全利用者合同で過ごすことにしました。町内のゴミ収集が再開されました。

8月2日（金）

食事がお弁当で提供されました。水道を時間復旧させ、洗濯と入浴ができるようにしました。

8月3日（土）

洗濯ができるようになったことで、今までできなかったシーツなどの洗濯を順番に行うことにしました。

また、行政から視察があると連絡が入りました。

8月5日（月）

嘱託医の被災により、他院受診を職員が手分けして行いました。また、町内の公民館などが被災により使用できないため、婦人会にしんわ苑の会議室を貸し出しました。

8月6日（火）

被災した職員の休みについて、6日までを特別休暇扱いとしました。

8月7日（水）

水道が完全復旧し、水質調査が入りました。職員の納涼会が中止となり、その費用を被災した職員の見舞金にしました。

8月9日（金）

元気な利用者が職員と一緒に苑の周りの環境整備をしました。

生活面において、出勤職員が少なかった為、通常日程をすることができず合同での行動が続き、大変ストレスが多かったと思います。利用者の安定した生活を守るためには、ルーティーンがいかに必要であるか実感しました。今後の対策として、日頃からどのような環境においてもルーティーンが可能であるよう、また、環境に応じて多様に変更できるよう構造改革をする必要があります、そのためには、施設内のみならず、地域においても共生できる環境作りが必要であると思います。

●医療面

7月28日、Sさんの受診（朝夕の点滴）で萩市内まで片道30数キロを通っていました。本人と支援員2名は豪雨の中かろうじて帰苑できましたが、夕方の点滴には行くことはできませんでした。翌日、電話にて指示を仰ぎ抗生剤は内服薬に変更して頂きました。7月は特に問題なく過ぎましたが、8月の処方箋の件が問題でした。嘱託医のM先生の医院も災害により1階が水没し、片づけても診療を再開できる状態ではなく、代替えの場所も町内にはなく、廃業を余儀なくされました。当苑の利用者はもちろん地域住民にとっても地元で唯一の医院でした。先生は苑の開苑当初から利用者の診療に当たられ、多くを説明せずとも利用者の状態が解る先生で、苑にとっても大変心強い存在でしたが、再開できずとても残念でした。当時の利用者数58名のうち服薬者は54名であり、向精神薬や内科薬の服薬者数は41名で70%の処方を前嘱託医が担っていました。前嘱託医の指示にて利用者の処方を他院でもらうよう言われた為、2日間、4か所に分かれて支援員の協力もありほぼ全ての処方箋を貰うことができました。近隣の医院も災害の大変さを思っただけで大人数の診療を快諾して下さいました。その際、お薬手帳と既往歴等の情報提供書の類は大変役立ちました。以降変化があるたびに情報を更新しているところです。しかし、次の災害に備え衛生材料・薬品・消毒液等に加え、必要物品を全てかつ多数備えるとなるとコストや使用期限の問題もあり完全とはいかない面もあります。

2か月後の10月には現在の診療センターの医師が嘱託医を引き受けて下さいましたが、考え方ややり方等異なる面が多く戸惑いの連続でした。また、当時はSさんの受診をはじめ、精神科はもちろんのこと、外科・整形外科・皮膚科・循環器科・泌尿科・眼科・歯科と定期受診が多くありました。幸い苑に土砂災害等がなかったため、2、3日もすれば元の生活に戻れることはできました。しかし、利用者1名は山からの水で苑庭いっぱいになった様子が恐怖だったようで、あの災害以降、今現在でも雨天の日是不眠で安定剤を必要としています。

当苑は高台にあるため水害になる可能性は低いですが、今後いざというときには、保険証とお薬手帳・内服薬・本人カルテがすぐに取り出せるように今後も管理し、またこれらすべてが入る運搬に適した物が必要と思われれます。さらに、衛生材料等物品の点検も常に怠らないようにと思います。

●給食面

前回の水害の際には、大規模停電や断水もなく、利用者の皆さんに食事等の提供は継続できました。しかしながら、グループホームの利用者、一般避難者、被災により出勤できない職員等の予想外の対応に追われました。今後の災害時の対応として、グループホームの利用

者にはグループホームが再開するまで、在苑利用者同様にストックしてある米や防災非常食、さらに外注の弁当などで食事提供をすることで対応できると思います。一般の避難者については、水分補給としてお茶の提供をし、長く避難場所として使われる場合は市に対応をお願いしたいと思います。また、職員の食事については、防災非常食は利用者の人数分で計算してあるため、個人で日頃からカップ麺などを備えておく必要があると思われます。現在しんわ苑では、防災非常食の管理を表1のようにしており、消費期限が近づいたものから防災訓練の日などに使用し更新しています。また、災害時における献立の見直しを行い、利用者に合わせて内容を提供できるよう防災非常食の変更を行いました。

それでは、調理に必要な電気・ガス・水道が使えなくなった時の対応を想定してみます。

【停電の場合】

停電で一番怖いのが、冷蔵庫や冷凍庫にある食材が傷み使えなくなる可能性があることです。長期に停電する場合は、発電機を業者からリースして一番大きい冷蔵庫を設置し、全ての食材をそこに集め保存します。そして、管理栄養士の指示のもと、傷みやすいものから調理します。使用頻度の多いスチームコンベクションオーブンの使用不能を想定し、ガスを使用する等の工夫も必要です。さらに、支援員と連携し、日中の明るいうちに夕食を摂ることも大切だと思います。

【ガスが使えない場合】

前例がなく、なかなかないことかと思えます。それでも災害を想定して準備する必要があるなら、苑にカセットコンロが6台あるので、カセットガスを20本程度用意すれば3回分の非常食は作れると思います。これは、非常食のほとんどは非加熱使用が可能のためです。

【断水した場合】

市役所に連絡し、すぐに給水車を配置してもらいます。調理用の水と飲用水は防災用のミネラルウォーター（利用者数×2～3ℓ/日×3日分）を使用し、洗浄などは給水車の水を使用します。

また、調理員の人数が揃わない場合は、弁当屋に依頼して内容を確認したうえで、利用者の食べやすいように刻みやトロミをつけて提供しますが、支援員や事務員の対応となると訓練が必要と思われます。また、備蓄している非常食についても同様に調理員が出られない場合は他の職員で調理し提供することとなります。さらに、弁当屋も被災している場合は市からの非常食を待つこととなります。

今までにも台風や豪雨により停電や断水は何度かありました。断水については、苑にも貯水タンクがあり、すぐに水が出ず使えなくなることはありません。断水と分かった時点で給水車を呼んでおけば、苑の貯水タンクを使用しながら調理は可能です。しかし、停電の場合は、苑に自家発電がないため、限られた料理の提供となります。さらに、調理場にある洗浄機・乾燥殺菌庫3台・冷凍冷蔵庫3台・スチームコンベクションオーブンが使えないことになり、衛生面で非常に良くない状態になります。先々の計画として、被害にあっても利用者のサービス提供に影響が出ない施設づくりを考え、自家発電を取り入れることも検討課題であると思われます。

●管理面

平成28年1月にしんわ苑の敷地の一部がレッドゾーンに指定されたことで、防災マニュアルの見直しを行いました。まずは、風水害（集中豪雨）時の避難経路を火災時とは別に考え、山側ではない所を通行する見直しをしました。さらに、避難時の利用者輸送の考え方の見直しをしました。避難場所に指定された中学校まで苑のマイクロバスで往復することの危険性や、一般避難者との避難生活を考えた時に、介助用トイレの問題や、環境の変化によるストレス等で混乱を生じることを想定すると、利用者が住み慣れた環境で対応できることが望ましいと思います。

また、しんわ苑は4つのグループホームを抱えており、前回の災害時には多くの問題が提起されました。災害当日、日曜日であったためグループホームには利用者しかおらず、連絡も取れない状況でした。近くに住む職員が安全確認に向かうと増水した川の土手を歩いていました。中には濁流を覗き込むようにしている利用者もおり、危険であることを知らせる職員にお道化て見せる場面もありました。さらに、避難場所に指定された公民館に向かう途中でしたが、公民館はすでに水没し避難できる状態ではなく、利用者自身の危機管理対策も検討課題の一つとなりました。

3. まとめ

当日、自ら被災した状況の中で出勤し利用者に食事提供した調理員や、交通経路の遮断により3時間かけて通勤した職員、また、何日も泊まり込んで対応に当たった職員がいたからこそ、利用者の皆さんの健康と安全が保てたことは語り継がれることです。二度とあってはならないと思いますが、いつ災害が起こるか分からない昨今です。災害における訓練はもちろんのこと、日頃から職員間の連携を確保し体制作りを強化しているところです。また、地元の元職員とのネットワークづくりが今後の課題です。

4. おわりに

しんわ苑は、比較的高台に位置し、後背地は山林に囲まれ、前庭は広い公園となっていることから、災害時における地域住民の避難場所にも適した施設と考えられます。

しかしながら、しんわ苑の裏山は、現在、土砂災害特別警戒区域及び土砂災害警戒区域に指定されていることから、大雨による土砂災害には比較的弱いところがあります。

そこで、私たちしんわ苑は、この土砂災害が起こらないよう、また、起こったとしてもこれを受け止めることができるよう、しんわ苑の後背地に土砂災害を防止するための施設（堰堤等）を設置することについて、萩市をはじめ関係機関に対して要望していきたいと考えています。

防災非常食の在庫状況

品名	数量		賞味期限	保管場所	備考
マジックライス 白飯	100g×50食		2019.5	厨房外倉庫	
マジックライス 白飯	5kg (50人分)	×4	2022.11	〃	1ケース/回
マジックライス 五目ご飯	100g×50食		2019.6	〃	
マジックライス 青菜ご飯	5kg (50人分)		2022.8	〃	
マジックパスタ カルボナーラ	20食	×3	2022.9	〃	60人分
備蓄deボローニャ (パン)	100g×24缶	×2	2022.5	〃	
LLヒートレスカレー	200g×30袋	×2	2022.10.23	〃	60人分
LL牛丼の素	80g×120袋		2020.6.7	〃	2回分
LLいわしの生姜煮	150g (3切) ×45袋		2020.6.7	〃	2切/人
ウインナー	60g (3本) ×50個		2020.1.22	〃	
即席顆粒みそ汁	20食×12缶		2020.5.2	〃	3缶/回×4回分
豚汁1号缶	3kg(15～20食)×6缶		2020.3.23	〃	3缶/回×2回分
コーンスープ	150g×30袋	×2	2020.1.29	〃	
朝からフルーツミックス	190g×24缶		2020.5.11	〃	2～3人で1缶
えいようかん	60g×5本×20箱		2019.7.8	〃	2回分
ミルクスティック	6g×8本×30袋		2019.5.3	〃	4本/人
さばのみそ煮	70g×8切/50g×10切			冷凍庫	
鶏肉の照り焼き	60g×10切×6パック			〃	
びわ缶				乾物倉庫	

飲料水の在庫状況

品名	数量		賞味期限	保管場所	備考
志布志の自然水	2ℓ×6本	×45	2021.3.17	本館女子倉庫	3ℓ×3日×60人分

補填予定分

品名	数量		賞味期限	保管場所	備考
マジックライス 白飯	5kg (50人分)		5年	厨房外倉庫	
マジックライス 五目ご飯	5kg (50人分)		5年	〃	
コーンスープ	150g×30袋	×2	30ヶ月	〃	
即席顆粒みそ汁	20食×12缶		3年	〃	